



いずみ高校 News

ニュージーランド研修特別号 2018.10.25

改組から20年の節目を迎えたいずみ高校では、この夏、新たに海外研修「いずみ Global Workshop in New Zealand」を実施しました。海外で過ごした10日間の経験で、私たちが「地球市民」として生きていることを実感すること、つまり、グローバルな視点からわが国を俯瞰し、客観的に見つめ直すことができたとすれば、このプログラムは大成功だったと思います。

さて、参加してきたいずみ高生はどんな感想を抱いているのでしょうか、ぜひご一読ください。

埼玉県立いずみ高等学校長 栗藤 義明

(インタビュー)

- ・島村聡美さん (生物生産科 3年)
- ・島田芽依さん (環境建設科 2年)
- ・秋山光太郎くん (生物系 1年)
- ・石毛大河くん (環境系 1年)



ともに旅したGWNZバナー(参加者とホストファミリーのサインを添えて)

Q. 参加のきっかけは何ですか？

島村：私は、大学を受験するうえで、新しい経験が大事だと思ったからです。企業でもグローバルといっているの、海外で生活する経験も大切なのではないかと思いました。ニュージーランド(以下NZ)では、牛や羊の酪農を観察したり、ホームステイも初めて経験できました。日本にいと、外国人と触れ合うことが少ないですが、NZの人は日本語が通じませんし、生活をするうえで会話が欠かせないので、積極的に話すことができました。

島田：私は、親に勧められたのがきっかけです。事務系の仕事に就きたいと思っていたので、外国人が何を言っているのかをわかれば就職にも有利かなと思って、参加しました。研修を通じて、何を言っているのかはだいたいわかるようになりましたし、伝えたいことを、単語を並べて伝えられるようになりました。自分が求めていた程度の語学力は身につきました。NZでは、中国や韓国のお店があったり、コンビニの商品が韓国産だったり、アジア系住民が多かったのが意外でした。

秋山：僕は、海外に行くのも初めてですし、2020年の東京五輪で、外国の方に手助けをできるような英語力を身に付けたいと思い希望しました。英語が通じるのか不安でしたが、ホストファミリーが積極的に話してくれましたし、うまく文章で話せないときは、単語を並べて話したり身振り手振りを使うと、意外と通じると感じました。研修を終えて、こんなに英語を話せるんだという自信ができましたし、もっと英語を学びたいと思いました。



石毛：NZで日本と違うところを探したかったし、ホストファミリーや現地の学校の生徒、いずみ高校の友人と交流を深めたかったからです。ホストファミリーとうまく話せるか不安でしたが、言葉が分からない時は電子辞書を使ってコミュニケーションをとれました。ステイ先では、「いただきます」や「ごちそうさま」がなく、ホストマザーに呼ばれたら食べて、食べ終わったら流しに置いて終わりだったり、街中に自動販売機がなかったりしたので驚きました。

Q. 印象に残ったことは何ですか？

島村：NZは、オークランドやクライストチャーチなど、都市でも自然公園や登山の遊歩道などが充実していて、自然がいっぱいあって、自然保護が行き届いていると思いました。交流先の学校でマオリ語のクラスがあり、彼らがハカを踊ってくれました。ハカは間近で見るとすごい迫力があって、とってもかっこよかったです。博物館の歴史的資料も充実していて、わかりやすかったです。NZの人たちは、自分たちの歴史や自然環境を大切にしていると思いました。

島田：住宅街をちょっと抜けると、羊や牛がいっぱいいました。車でずっと走って行ってもいっぱいいたので、すごいなと思いました。一般道でも120キロくらいで走行していたり、日本よりも日本車が多く走っていることにびっくりしました。

秋山：ホストファミリーに、マオリ博物館や、マオリの伝統的な建物、スーパーマーケットなどに連れて行ってもらったことです。マオリやNZ人の生活スタイルについて詳しく知れました。

石毛：僕は、ホストファミリーのおばあちゃんの農場で、羊に草やミルクをあげました。NZの様々な観光スポットにも連れて行ってもらえて、ファミリーと交流ができたので嬉しかったです。

Q. 研修前の事前学習では何を調べましたか？

島村：私は、祝日・行事について調べました。NZの人たちは、戦争で亡くなった人をねぎらったり、初めてNZに上陸した日を祝っていて歴史を大事にしていると思いました。

島田：私は建設科なので、NZの建造物が、日本とどのように違うのかを調べました。NZは、マンションみたいな建物はほとんどなくて、一軒家も平屋が多かったです。また、外観も色がいっぱいありました。日本だと庭のない家もありますが、一つ一つの家に広い庭があっていいなと思いました。ホストファミリーの家もすごくきれいでした。

石毛：僕は、NZの気候が一年中穏やかと聞いたので、気候について調べました。実際にNZに行ってみると、寒くても湿度があり、真冬としてはすごしやすかったです。

Q. 今後、このような体験を人にすすめたいですか？

島村：はい。国内だけではなくて、海外を経験して視野を広げてほしいと思います。私は、帰国後もNZの情報がでると気になるようになりました。NZでは、現地の人と同じタイミングで笑ったりしたので、人種は違って同じ人間なので、楽しいことは楽しいし、嫌なことは嫌なんだなと思いました。今回、文化が異なる国に行ったので、考え方が違う人がいても、違って当たり前だからそんなに否定することはないなと思い、受け入れる心ができたと思います。

秋山：ぜひ行ってほしいです。海外に行くことで、日本とのちがいも見つけられるかもしれないし、国境をこえて友人ができます。帰国後に、また行きたい気持ちが強くなるので、初めて海外に行く人にはお勧めです。僕は帰国後に、もっと外国の方々と交流を深めたり、いろんな国に行って現地の文化を学んだり、もっと英語を学んで上達したいと思うようになりました。

石毛：勧めたいです。僕は研修後に、NZをはじめ海外に行ってみたい、調べてみたいという気持ちが出てきました。たくさんの人に、日本と違う国の文化を知ってもらいたいです。今回の研修では、多くの場所を見学できて、ホストファミリーとの仲も深めることができました。NZには日本と違う魅力がいっぱいあるので、日本を離れて、自然や文化とかを感じてほしいです。インバーカーギルは、さいたまと違って山がたくさんありますし、電車がありませんでした。研修後半に、そこで見た星はとてもきれいでした。



Southland Boys' High Schoolにて(1881年創立の伝統校です)